

トンネル工学委員会 技術小委員会 「トンネルの耐震性に関する技術検討部会」委員公募のお知らせ

【部会名称】

トンネルの耐震性に関する技術検討部会

【設置目的】

国内においては、これまでに鉄道や道路をはじめとする社会基盤の整備が全国的に進められ、様々な用途のトンネルが数多く建設されてきた。地中にあるトンネルは地上構造物に比べて地震による被害を受けにくいとされてきたが、1995年兵庫県南部地震では山岳トンネルや開削トンネルの一部が崩落し、2004年新潟県中越地震や2007年新潟県中越沖地震では比較的多くの山岳トンネルや一部のシールドトンネルにおいても被害が報告されている。さらに2016年に発生した熊本地震では山岳トンネルが被害を受けるなど、近年、大規模地震の発生により、その機能を復旧するために多大な労力と時間を必要とするほどの比較的大きな被害を受けたトンネルが報告されている。

今後においても東海・東南海・南海トラフ大地震あるいは首都直下型地震等の発生が危惧されており、これら大規模の発生に伴い、開削トンネルのみならず地震に強いとされてきた山岳トンネルやシールドトンネルにおいても、被害の発生が懸念されている。

そこで、代表的な3タイプのトンネル（開削、シールド、山岳）を対象として、大規模地震による被害の実態を把握するとともに、既設・新設トンネルを対象とした耐震検討手法ならびに耐震補強方法についてとりまとめることが重要であると考え、上記の活動を行うために「トンネルの耐震性に関する技術検討部会」を設置する。

部会は、3工法それぞれについてWGを設置して活動することを予定している。また、3工法の検討内容を調整する共通WGの設置も予定している。

【部会構成】

- ・ 部会長 : トンネル工学研究会 理事長 (京都大学 名誉教授) 朝倉 俊弘
- ・ 副部会長 : 国立研究開発法人 土木研究所 砂金 伸治
: 公益財団法人 鉄道総合技術研究所 野城 一栄
- ・ 幹事長 : 中央復建コンサルタンツ株式会社 室谷 耕輔

【活動期間】

- ・ 2017年度より3年間。 ※旅費、交通費は支給されません。
- ・ 年3~4回の開催を予定。

【主な活動内容】

- ①地震被害の実態把握・整理
- ②国内外での耐震設計に関する研究事例の収集・整理
- ③新設トンネルの耐震設計法ならびに設計事例の紹介
- ④既設トンネルの耐震性能評価手法ならびに補強対策方法・検討事例の紹介
- ⑤今後の耐震性評価・耐震設計に関する提言
- ⑥ライブラリーの発刊および講習会開催

【公募内容】

- ・部会活動に積極的に参加していただける方を募集します。
- ・募集人数は設置予定の各WGで若干名を予定しています。
なお、応募者数によってはご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご承知おきください。
- ・公募期間：2017年10月31日（火）
- ・応募方法：
参加を希望される方は、①氏名、年齢、②所属・役職、③連絡先（住所、電話番号、E-Mail アドレス）、④参加希望WG（山岳WG、シールドトンネルWG、開削トンネルWG）を記載し、以下の応募先までE-Mailでご連絡ください。
- ・応募・問い合わせ先：
中央復建コンサルタンツ株式会社 鉄道系部門 地下鉄グループ 室谷 耕輔
〒102-0083 東京都千代田区麴町 2-10-13
TEL 03-3511-2006 E-Mail : muroya_k@cfk.co.jp